

2019年度ハワイ短期留学プログラム参加報告書

A類 英語選修 1年

私はアメリカンフットボール部に所属していて、トレーナーという役職を務めています。この「ハワイ留学プログラム」を選んだ理由は、部活のオフシーズンとかぶっていたことと英語圏の文化や自然を学びたいということです。また、私は英語科に所属しているのですが、文法や発音など「英語」という語学に関することが中心で、英語圏の文化や自然はまだ学習しきれていないというのが現状です。そのため、このプログラムでハワイの歴史や文化、自然を肌で感じたいと考えていました。

このプログラムに参加して特に感じたことは、ハワイの文化です。その中でも食文化にとっても興味を持ちました。プログラムの中で、日系三世のムラタ夫妻のホームパーティーに参加させて頂く機会がありました。そこで、ココナツプリンのような「ハウピア」やタロイモの葉を蒸したものにタコやイカをあわせた「ルアウ」、豚肉を蒸し焼きにした「カルアピッグ」などハワイの伝統料理を食べました。また、Waiahole Poi Factory ではハワイの主食であるタロイモをつぶした「ポイ」ができる過程を見学しました。重たい石でタロイモをつぶし、粘り気が出るまでこねる動作は、このハワイ研修の中でもとても印象に残っています。また、これらの食文化からハワイに住む人々の性格も学ぶことができました。プランテーションビレッジに行った際、ハワイに住む人たちは、料理をするときに少し多めに作ると聞きました。これは、プランテーション時代に自分の家で作った料理と近所の家で作った料理を分け合っていたからだそうです。そうすることでたくさんの料理が楽しめるし、万が一近所の人に何かあっても助けられるようにしているのです。この助け合いの精神は、現在ハワイに住む人たちの心にも根付いています。小学校教諭のエミー先生からお話を伺う機会がありました。そこでエミー先生は、ワイアルア小学校では、



「Equity」といって、どんな子供にも平等な教育をすることをモットーにしているとおっしゃっていました。あまり勉強が得意ではない子供に対してはチューターを付けてサポートしたり、服を毎日洗濯することが難しい家庭の子供に対しては先生たちが洗濯をしたりして支えているそうです。これは助け合いの精神がないとできないことです。

このようにハワイとは、歴史、食文化、そこに住む人々、自然がつながって一つの島を形成していると考えたらとても壮大で興味深く感じました。ハワイと聞くと人気の観光スポットということしかわからなかった私にとってハワイでの経験はとても貴重であり、大きく一歩成長できたと思っています。



このハワイ短期留学プログラムに参加し、大学生のうちにもう一度、今度は長い期間で留学をしたいと強く思うようになりました。将来、小学校教師の道に進んだ時に英語圏の文化や自然、歴史について知っておくことは自分にとって大きなアドバンテージになると確信しています。さらに、自分の目で見えて直接感じたことを未来の子供たちに伝えていきたいと思っています。その夢を叶えるために、これからは、より一層語学の勉強に励んでいきたいです。四年間しかない大学生活の一日一日を大切にしていこうと思えた短期留学でした。